

令和5年度 栗原版デュアルシステム

第2回運営委員会



栗原版デュアルシステム運営委員会設置要綱

(趣 旨)

第1条 この要綱は、文部科学省からの専門高校等における「日本版デュアルシステム」推進事業による指定終了後の平成20年度以降も、宮城県一迫商業高等学校（以下「実施高校」という。）において、「日本版デュアルシステム」（以下「栗原版デュアルシステム」という。）を継続実施することに伴い、「栗原版デュアルシステム」の実施のために設置する運営委員会に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 栗原版デュアルシステム運営委員会（以下「運営委員会」という。）は、栗原版デュアルシステムの円滑な実施運営に資することを目的とする。

(所掌事務)

第3条 運営委員会は、次の事務を所掌する。

- 1 栗原版デュアルシステムの運営に関する指導及び助言
- 2 栗原版デュアルシステムの運営に関する評価
- 3 その他栗原版デュアルシステムの運営に関する必要事項

(構 成)

第4条 運営委員会は、実施高校の教育に専門的知識を有する者、学識経験者、受入企業の代表者、栗原地域の産業団体関係者、産業振興及び雇用行政担当者等、別表に掲げる者をもって構成する。

(組 織)

第5条 運営委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 1 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

(会 議)

第6条 運営委員会は、必要に応じ委員長が招集する。

- 1 委員長は、運営委員会を代表し、会務を主催するとともに、運営委員会の議長となる。
- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。
- 3 運営委員会には、必要に応じ、別表に定める者以外の出席を求めることができる。

(事 務 局)

第7条 事業の円滑な実施を図るため、事務局は実施高校に置く。

(補 則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は運営委員会で協議し別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成20年9月25日から施行する。

デュアルシステム概要

1 概要

栗原版デュアルシステム

地域産業界と連携を図りながら職業人として地域社会に有為な人材を育成することを目的とし、科目「総合実践」の中の「企業実習」「販売実習」「起業家研究」を中心とする取組である。

2005年（平成17年）に文部科学省より研究指定を受けた地域（学校）は20校あり、本校もその中の一つです。宮城県栗原地域で実施するため、「栗原版」デュアルシステムと命名しました。

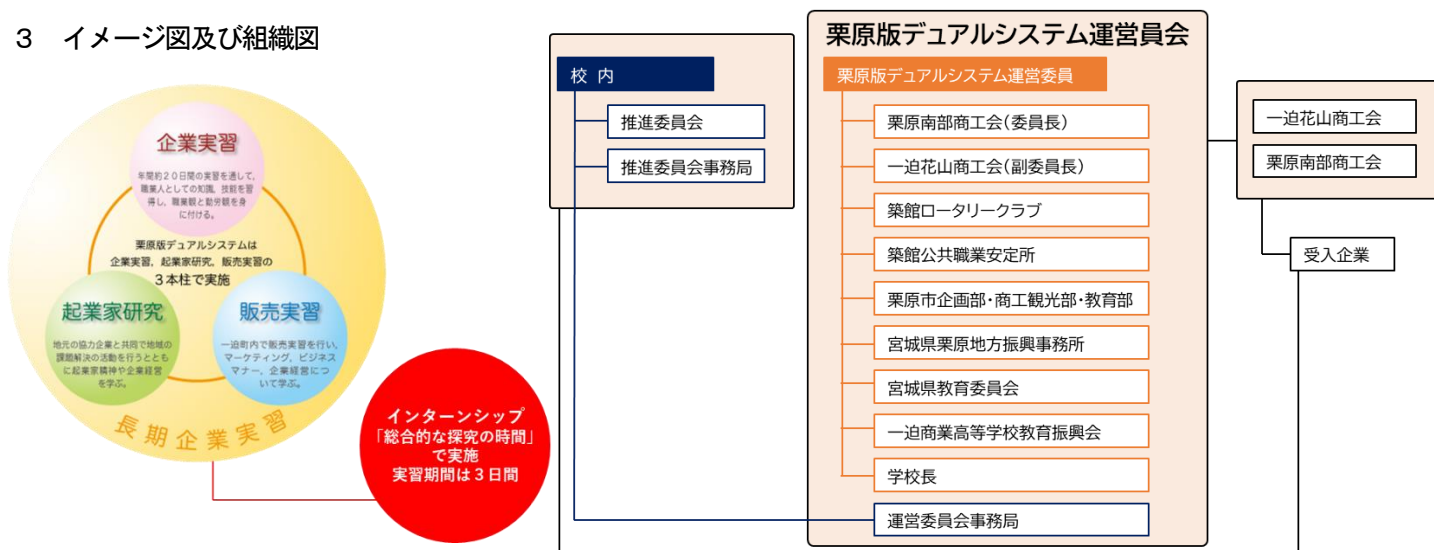
“地域産業界と連携を図りながら共同で将来有為な人材を育成すること”を目的とし活動を行っており、本校は、地域社会や県の協力のもとで継続して活動し、平成25年には文部科学大臣表彰を受けました。

2 ねらい

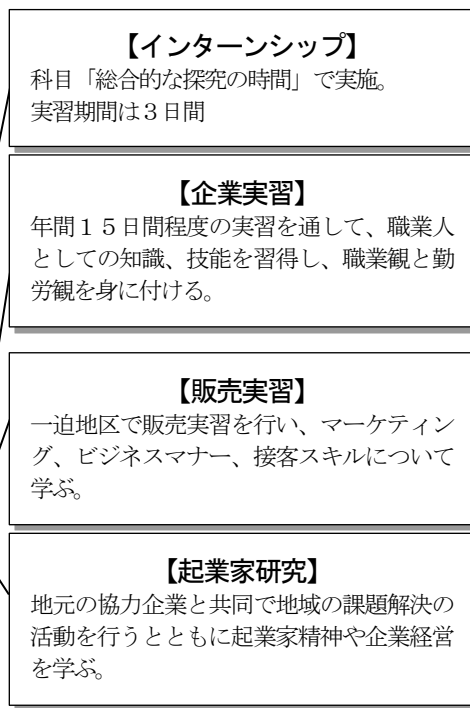
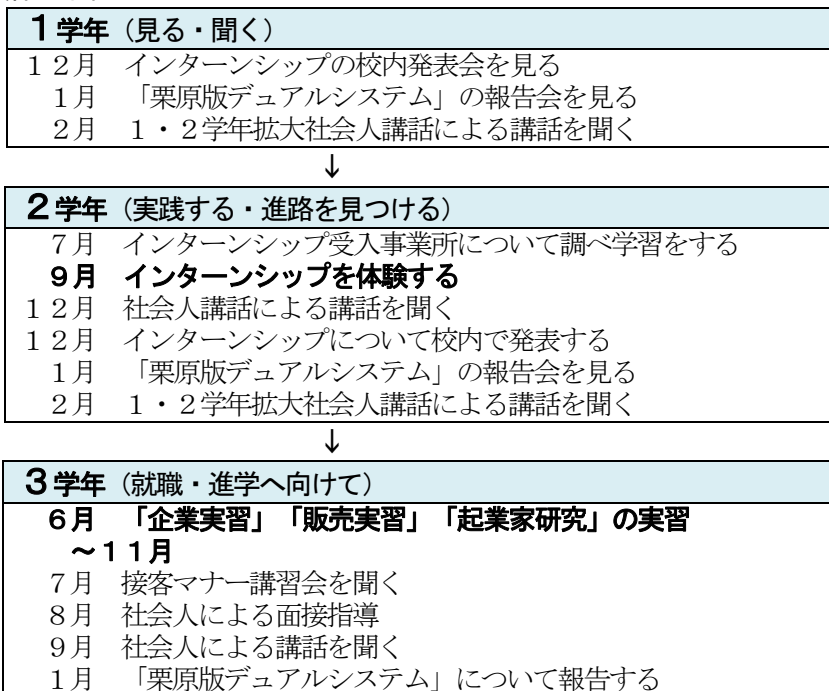
【職業観、勤労観の育成】 【地域の有為な人材の育成】 【地域と連携し、地域活性化の一助とする】

1年次は、先輩方の学習報告会への参加を通じて、職業観の種を植え、2年次でインターンシップの体験を通し、芽吹かせています。この取り組みにより、効果的な職業観や就業観を育成し、地域に貢献できる人づくりを行っています。

3 イメージ図及び組織図



4 具体的取組



5 議 事

(1) 令和5年度「栗原版デュアルシステム」実施報告

(ア) インターンシップ

令和5年度 第2学年 科目【総合的な探究の時間】「インターンシップ」 活動報告

目的

- (1) 人間としての在り方、生き方について生徒が自ら考え自覚を深めて自己実現を図る資質や能力を育てる。
- (2) 職場における、実地的な知識や技術・技能に触れることにより、学習意欲を喚起し、主体的な職業選択能力や高い職業意識を育成する。
- (3) 勤労の尊さや喜び、楽しさや厳しさを学び、社会における自己の役割や責任・自覚を促す。
- (4) 総合的な探究の時間で身に付けたことを他の教科でも活かし、自己の能力を高める。

1 実施科目 2学年 「総合的な探究の時間」 1単位

2 対象生徒 2学年 36名

3 担当教員 進路指導部教員、2学年所属教員

4 実施期間 令和5年9月5日(火) から 令和5年9月7日(木) ※インターンシップ実施期間

5 今年度の活動について

オリエンテーション(1時間)・自己理解①(自分史作成、7時間)・インターンシップに向けて(6時間)・インターンシップ(3日間)・インターンシップを終えて(10時間)・自己理解②(企業研究、学校研究8時間)で実施した。2学年教員全員での指導体制で臨んだ。自己理解①については国語表現でも並行して取り組ませた。また、取組毎に発表の機会をつくるなどして取り組ませた。1年生への報告会を全員がICTを活用して行い、デュアルシステム学習報告会に代表者が発表するという形は、1年生への意識付けとともに、2年生の次年度の取組に向けた姿勢づくりとしても有意義な活動となった。進路希望達成の大きな流れに向けた一つ一つのステップや学校外の実際の活動が、段階的、効果的に生徒の中に定着したものと考えられる。

6 協力企業 全29事業所(敬称略・順不同)

事業所名	受入人数	事業所名	受入人数
栗原市役所	1名	(株)丸江スーパー一迫店・岩ヶ崎店	各1名
栗原市立図書館	1名	(株)ヨークベニマル築館店	2名
栗原市立築館幼稚園	3名	(株)ケーズデンキ築館店	2名
築館警察署	1名	ジオマテック(株)金成工場	1名
築館税務署	1名	税理士法人くりはら中央会計	1名
日本郵便(株)一迫郵便局	1名	宮城トヨタ(株)カローラ築館店	1名
宮城福祉会特別養護老人ホーム山王	1名	(有)パレット	1名
社会福祉法人まりやの郷	1名	(有)ひらの	1名
障害福祉サービス事業所パン工房いそっふ	1名	ラーメンショップ秋桜コスモス	1名
合同会社くりはらファーマーズラボ	1名	HARBER barber shop	1名
(株)ウジエスーパー栗駒店	2名	UGOQ(株)fitness&gym	1名
(株)しまむら築館店	2名	(株)JR東日本テクノサービス小牛田営業所	1名
(株)北光	1名	シネマ・リオーネ古川	1名
栗駒特産物直売センター山の駅くりこま	1名	ドン・キホーテ古川店	2名

7 反省と課題及びその解決策

今年度は特に、生徒一人ひとりに責任を持って取り組ませることを意識して、一人一事業所となるよう担当者がかなり配慮して実施した。しかし、生徒の第3希望の範囲内で受入可能な事業所となることにも配慮した結果、複数生徒となった事業所が6ヵ所となった。今後も同趣旨で進めていきたいが、全教員の規模で割り当てて進めるため、教員側の負担感は大々くなっている。次年度は、一人一事業所の趣旨を踏まえた上で、教員の負担を軽減するために、集約して進める部分と割り振りする部分を整理して進めたい。

また、実施事業所を本校の過去の実績や「くりはら仕事本」等に基づいて選定していくが、昨年度と違う対応の事業所、3日間の実施とならなかった生徒(行けない日は学校での取組となる)が出てくるなど、事業所選びは常に課題となる。デュアルシステムの取組としての位置付けによるインターンシップとしての側面を意識して今後も進めていきたい。

(イ) 企業実習

令和5年度 第3学年 科目〔総合実践〕「企業実習」班 活動報告

目的

- (1) 栗原地域の特性を踏まえ、地域産業と連携し、職業についての知識や技能を身に付ける。
- (2) 地域産業の担い手となる将来有能な人材の育成を目指して現場での実習を実施し、望ましい職業観や勤労観の醸成を図る。

- 1 実施科目 3学年 「総合実践」 3単位
 - 2 対象生徒 3学年 6名
 - 3 担当教員 商業科 加藤 幸禎、伊藤 貴章
 - 4 実施期間 令和5年4月14日 から 令和6年1月26日 まで (1回の実習時間は2～3時間程度)
- 実習日

回	月	日	回	月	日	回	月	日	回	月	日
①	6月	2日	②	6月	9日	③	6月	23日	④	7月	14日
⑤	8月	25日	⑥	9月	1日	⑦	9月	8日	⑧	9月	29日
⑨	10月	6日	⑩	10月	13日	⑪	10月	27日	⑫	11月	24日
⑬	12月	1日									

5 今年度の活動について

今年度の企業実習は、地域産業（事業）と連携し、職業についての知識や技能を身に付け、自身の進路達成を目標に、企業の協力のもと実習を行った。企業実習に協力いただいた業種は「販売業」や「接客業」、「製造業」の業種に加えて「幼稚園」、「自衛隊」、「一迫総合支所」でも受け入れていただくことができた。年度初めの学習活動では、なぜ企業実習に取り組むのかの趣旨を教員側から説明し、生徒一人ひとりが卒業後の生活に向けたイメージを考えていき、実習したい企業を自分自身で決めていった。実習の依頼においてはその趣旨を正確に伝えることの重要性を指導し、自分自身で先方に依頼ができるようにロールプレイング等を通して指導を行った。

各事業所での生徒の様子は、大変良好で自身の進路達成へ真面目に取り組んでいる様子が見られた。事業所の方からも「仕事に対して真面目に取り組んでいる」や「挨拶ができてい」などの前向きな評価をいただいた。また「栗原市一迫総合支所」では、生徒自身が卒業後の進路について担当者の方に相談したことにより「栗原消防署西出張所」でも2回実習を受け入れていただき、実施することができた。

まとめの学習では、成果や課題を自分たちで振り返り、卒業後の生活にどのように生かすのか、また主体的かつ協働的に仕事に取り組めるようにするのはどうすれば良いか考え、取り組むよう指導をしてきた。

6 受入事業所 全6事業所（敬称略・順不同）

栗原市一迫総合支所	1名	イエローハット築館店	1名
エポカ21	1名	イワサキ通信工業株式会社	1名
栗原市立一迫幼稚園	1名	自衛隊宮城地方協力本部栗原地域事務所	1名

7 反省と課題及びその解決策

企業実習においては、生徒自身が事業所に実習依頼をするところから学習活動を行っているが、昨今インターンシップを実施している学校が増えているため、本校で行う企業実習と混同する事業所が多く見られ、企業実習の趣旨を正確に伝えることができず、実施期間や実施回数などから受け入れを見合わせる事業所が増えてきた。

次年度からは、事前に担当教員が事業所に出向き、企業実習の趣旨や実施期間、回数について詳細な説明を行い、協力いただけるように働きかけたい。また、年間を通じて事業所との連絡を密に行い、フィードバックを随時行うことによって、生徒が成長できるよう効果的な企業実習の実現を目指していく。

(ウ) 販売実習

令和5年度 第3学年 科目〔総合実践〕「販売実習」班 活動報告

目的

マーケティングや接客マナー等について「実際に商品を仕入れ販売をして利益計算を行う作業」とおして、実務として体験させ、自ら考え行動する能力と態度を養い、さらに異世代とのコミュニケーションをおして勤労観や職業観を育成することを目的とする。

- 1 実施科目 3学年 「総合実践」3単位
- 2 対象生徒 3学年 17名
- 3 担当教員 商業科 牛袋 和義、千葉 敬太、加藤 直裕、門脇 公喜
- 4 実施期間 令和5年4月14日 から 令和6年1月26日 まで

実施日	内容
7月7日(金)	接客マナー講習会(お辞儀の仕方・ひよこスマイル等)
7月20日(木)	校内販売実習
8月26日(土)	接客実習 「栗原市民まつり(運営補助):おふるまい・抽選会・総合案内」
10月27日(金)	販売実習① 「あやめの里:北海道・東北フェア」
10月29日(日)	販売実習② 「いちはさま 秋の大収穫祭 ハロウィンマルシェ」
11月24日(金)	販売実習③ 「あやめの里:九州・沖縄フェア+東北」

5 今年度の活動について

目標:地域の方々に喜んでもらえる商品を販売する

[活動内容]

4月~6月	「どんな商品が売れるのか?」、「各企業のコンセプトはなにか?」等を調べて発表 校内販売実習に向けた校内でのアンケート調査・集計・分析	
7月~8月	接客マナー講習会、校内販売、栗原市民まつりでの運営補助	
9月以降	【主な取り組み内容】 一迫地区でのアンケート調査・集計・分析と商品選定 仕入・値引き交渉 見積依頼や注文のFAX送信 支出伺いの準備と検品 新聞折込チラシやPOP広告の作成	【教員の動き】 地域住民への声掛けのフォロー、商品調べの方法の指導 電話対応の指導と交渉中のフォロー 書類の確認と添削(体裁・行頭を揃える) 商品の価格・数量、納品日の確認 デザインのアドバイス

[生徒の変容]

他者とコミュニケーションを取ることが苦手だった生徒が、自分からお客様へ声掛けができるようになった。また、何をすれば良いか教員に聞いていた生徒が、最後の実習では自らの役割を見つけて臨機応変に対応していた様子が見受けられた。

[CSR活動]

栗原市の学校教育に役立てたいという生徒の意見から、得た利益の全額「47,330円」を栗原市へ寄付した。

6 協力企業 全24社(敬称略・順不同)

企業名	主な商品名
イシマル食品 いの食品 御菓子御殿 沖縄ハム総合食品	北海道:かにみそラーメン 青森県:気になるリング
オキネシア 菓子工房 Ryo フルールきくや	秋田県:バターもち 岩手県:奥州ポテト
木村屋 餃子の馬渡 くまもと菓房 小六 ダイオー	山形県:月の山パンデロー 宮城県:塩竈の干物
トヤマ 南部せんべい乃巖手屋 二鶴堂 八千庵	福島県:いもくり佐太郎 鹿児島県:まぐろラーメン
藤原製麺 丸吉早坂商店 まる福 妻地鶏ファーム	福岡県:うまかだし 熊本県:芦北のデコボンゼリー
酪農協同乳業 ラグノオささき 露月堂 わらく堂	宮崎県:妻地鶏炭火焼 沖縄県:沖縄あぐー豚カレー

7 反省と課題及びその解決策

反省:全員で販売実習を行った際に手持ち無沙汰になる生徒がおり、適正人数の見極めをしたい。

課題:今年度は地域のイベントも開催され、実習の場が増えたことで生徒の学びを深めることができた。地域から学べる機会が増えたことは、栗原版デュアルシステムの意義にも合致しており次年度以降も積極的に参加したい。しかし、高校生が参加可能なイベントかの判別が難しいため、イベントの情報や参加へのお声かけをいただきたい。

(エ) 起業家研究

令和5年度 第3学年 科目【総合実践】「起業家研究」班 活動報告

目的

- (1) 産業界から求められる人材の育成を図る。
集団で課題を解決するなど、コミュニケーション能力の向上に努める。
- (2) 地域社会との関わりを持ち、学校から社会への円滑な移行を目指す。
社会との関わりの中で、生徒の自己有用感を高める。社会で自己を発揮できる自信を身に付けさせる。
- (3) 学習したことを地域社会に還元し、生徒の学習意欲の向上につなげる。
学校で学んだことを地域社会で役立て、社会から学んだことを、校内の学習活動に生かす。

- 1 実施科目 3学年 「総合実践」 3単位
- 2 対象生徒 3学年 7名
- 3 担当教員 商業科 伊藤 孝紘、藤原 恵、牛木 雅也、佐々木 義成
- 4 実施期間 令和5年4月14日 から 令和6年1月26日 まで

実施内容	実施日
夜市の運営（栗駒六日町通り商店街）	6月10日(土)、 7月 8日(土)、 8月12日(土)
六日町通り商店街散策・地域おこし協力隊との打合せ	4月28日(金)、 9月15日(金)、 12月 5日(火)

5 今年度の活動について

栗駒六日町通り商店街を学びのフィールドとして設定し、生徒たちが「他人ごとから自分ごと」として捉え、地域の諸課題へ真摯に向き合うよう指導してきた。

年度初めは、アイデア発想法や栗原市の地域情報を収集するなどの授業を行い、5月から本格的に栗駒六日町通り商店街へフィールドワークに赴いた。その際、地域おこし協力隊の三浦様より、2つの活動について協力の要請をいただいた。

- ①夜市の運営補助・アンケート調査
- ②クラフトビールのラベルデザイン

(商店街に工場をつくり販売店を出店し、地域の盛り上げやハブ型のコミュニティ形成に一役買いたいという思いから始まった事業)

夜市の運営では、羞恥心を捨て積極的にアンケートを取ることや、ラベルデザイン案の創造など、自分のレベルを上げることができたと答える生徒もいた。ラベルデザインでは、高校生らしさのイラストタッチや地元一迫のPRを含め、世界に一つしかないラベル作成に携わることができた。デザインには答えがなく、ぼんやりとしたイメージやテーマを元に作成してることが生徒にとっては初めての試みであり、協力し試行錯誤を重ねながらより良いものを作ろうとする姿が見てとれた。

6 協力企業 地域おこし協力隊（六日町通り商店街）

7 反省と課題及びその解決策

- テーマ：商店街の魅力を引き出しPRする

解決策： イベントの運営参加

(手作り看板作成・アンケート調査【QRコード・缶バッジ作成・オリジナルシール作成】・夜市の運営補助)

課題：アンケート調査を夜市運営にどれだけ還元できたのか

- テーマ：将来、地元栗原にクラフトビールの醸造所をつくる。先駆けとして目を引くようなラベルの作成を行う

解決策：栗原市地域おこし協力隊の三浦様と綿密な打ち合わせを行い、ラベル案をブラッシュアップし完成させる

課題：答えは消費者が持っている。高校生は実際にテイストや購入経験がないため、ターゲット・セグメントを絞る難しさがある。そのなかで、「一迫商業」のOB・OGが商品に手を取ることを想定したデザインとなった。

- 運営委員の助力を得たいこと

これまで、栗原市六日町通り商店街にスポットを当て活動してきたが、栗原市という広い圏内で、生徒に考えさせる問題点を提供していただける企業を推薦していただければと思います。理由は、栗原市が抱える課題に直接関わりご尽力いただいている各所から情報を提供していただくことで、地域で生かせる教育現場のリソースを的確に提供できると考えたからです。栗原市商工観光部をはじめとした、運営委員の皆様より栗原市が今、特に力を入れている分野や、高校生の参加により人手不足などの課題を解消できるような話題提供をいただきたい。

6 報 告

令和5年度進路内定先（令和6年1月10日現在）

●就職

-栗原市内（7名）

ナブコトート株式会社（2） 株式会社勝野製菓宮城（1） 東北部品株式会社（1）
株式会社東北イノアック築館工場（1） 株式会社クックガーデン（1）
HOYA株式会社ペンタックスライフケア宮城事業所（1）

-県内（3名）

株式会社エコプラス（1） 株式会社アルファス計装（1） トヨタ自動車東日本株式会社（1）

-県外（2名）

アイエイチロジスティックサービス株式会社（1） 株式会社共立メンテナンス（1）

-公務員（0名）

-縁故・自営（0名）

●進学

-大学（2名）

東北学院大学（1） 石巻専修大学（1）

-短大（0名）

-公共職業能力開発施設等（0名）

-専門（専修）学校（15名）

宮城農業大学校（1） 花壇自動車大学校（3） 宮城調理専門学校（4） 東北電子専門学校（2）
仙台大原簿記情報公務員専門学校（1） 東北ヘアモード学院（1）
仙台デザイン&テクノロジー専門学校（1） 仙台こども専門学校（1） 仙台医療福祉専門学校（1）

在籍数（30名）	希望者数	内定者数	受験中	未決定	決定率
就職	13	12	0	1	92.3%
進学-大学	2	2	0	0	100.0%
-短大	0	0	0	0	-
-専門（専修）学校	15	15	0	0	-
合計	30	29	0	1	96.7%



校訓

誠実 自律 奉仕